平成 18 年　1 月　1日
広島記念病院ホームページ URL　http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org

ＫＫＲ広島記念病院広報誌
きねん
第 9 号
発行所〒７３０－０８０２
広島市中区本川町１－４－３
国家公務員共済組合連合会
広　島　記　念　病　院
℡(０８２)２９２－１２７１

「2006 年の新年を迎えて」

広島記念病院病院長　中井　志郎

新年明けまして、おめでとうございます。皆様方には、2006 年の良い年をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。昨年はおかげ様で大過なく過せ、また、良質な医療の提供にご尽力いただきましたことに、心から感謝いたします。

史記によれば、戌年は、「万物が成熟して役目を終え、春に備えて、備蓄、蓄成の年である」と、また、戌の字は「刃物で作物を刈り、ひとまとめにまとめて締めくくり、収穫するという意味」だそうです。60 年に 1 回のひのえの戌年です。戦後 60年を過ぎ、日本の医療も第4次、第5次と医療改革が行われてきており、今年1年の内に、

Ⅰ） 診療報酬改定　Ⅱ） 介護報酬改定　Ⅲ） 第 5 次医療法改正
Ⅳ） 医療保険制度改革　Ⅴ） 薬価制度の見直し

等の改革が行われる見込です。

広島記念病院の今年1年間の目標は、

Ⅰ） 診療報酬改定に対して
1） DPC への参加（DPC 対応パスの充実）
2） 在宅医療促進（連携パスの作成）
3） 連携の評価（紹介率、逆紹介率の UP）
4） 外来再診料の包括化導入（急性期特定病院の認定）
5） 電子カルテの更なる進化
6） NST の稼動
7） 特定療養費の拡大

Ⅱ） 介護報酬の改定に対する記念寿の目標として
1） 予防給付の創設
2） 地域密着型サービスの創設
3） ケアマネージャーの質の向上策
4） 施設から在宅への移行促進（在宅復帰率）
5） 医療と介護の連携促進

また、第 5 次医療法の改正に対する目標として

1） 医療情報の公開（インターネットの充実）
2） 広告規制の緩和
3） 主要疾患別診療ネットワークの構築（CP の進化、病・病連携の強化）
4） 医療事故等の安全対策
　1） 医療の質と安全性の向上教育
　2） 医療事故の原因究明分析と再発防止策
　3） 患者との情報の共有と主体的参加

といたします。

平成 17 年 12 月 1 日、政府、与党医療改革会議は医療費の著しい伸びを抑えるため、4月から診療報酬を-3.1％引き下げる方針を決めました。

一層厳しい病院運営になると考えます。そこで、医療の原点である「患者さんの立場で考える」を基に、チーム医療の充実を図り、職員間で「自ら変化を起こす」文化を一層促進して、病院の経営安定に努めたいと思います。

各科紹介　産婦人科

広島記念病院　産科医長　横田　康平

先生方にはいつも御高配を賜り、感謝いたしております。

平成 11 年までにつきましては平成 13 年２月に発行されました広島記念病院五十年史で詳述しておりますので、平成11年以降の広島記念病院産婦人科について紹介させていただきます。

長年医長として腟式手術をされておられた上田正典先生は平成 11 年 3 月に定年となられ、その後 3 年間嘱託医として勤務されていましたが、平成 14 年 3 月に退職されました。私（横田康平、昭和 56 年卒）は平成 8 年 8 月から勤務しています。平成 11 年４月からは私と新甲靖（昭和 62 年卒）が継続して勤務し、3 人目は島筒里香子（平成 10 年卒）、川崎雅也（平成９年卒）、槙野洋子（平成 8 年卒）と交代し、平成 17 年 4 月から白石章子（平成 13 年卒）が勤務しています。

平成11年度から平成16年度までの６年間の分娩数の推移と手術実績をお示しします。

産科に関しましては、平成 11 年度 424 例であった分娩数が平成 13 年度には 648 例と増加しましたが、その後徐々に減少し、平成 16 年度は 505 例でした。建物は平成 10 年 6 月に全面改築され、きれいになりましたが、改築後 7 年半経過し新築効果が薄れたためと、周りにきれいな産科病院が新築されたため、分娩数は漸減傾向です。また当院には小児科医が一人しかいないため、ハイリスク妊娠及び妊娠 34 週未満の早産は県立広島病院及び広島市民病院の周産母子センターへ紹介搬送しています。平成 17 年 12 月から 4D 超音波診断装置を導入するとともに、助産師には母親学級、乳房外来の充実を、栄養科には食事の改善をはかってもらい、安全を第一に、より魅力ある産科を目指しています。

婦人科に関しましては、低侵襲手術としての腟式手術と腹腔鏡下手術の適応拡大に努めており、新甲靖は日本産科婦人科内視鏡学会及び日本内視鏡外科学会技術認定医の資格を取得しています。ちなみに平成 16 年度は 350 例の手術例のうち帝王切開 85 例を除く 265 例中 191 例（72%）が腟式手術と腹腔鏡下手術でした。特に子宮脱手術は患者の皆様に大変好評で、中高年女性の生活の質の向上に貢献していますので、そのような患者様がおられましたら御紹介の程、よろしくお願い致します。また良性疾患の開腹手術の場合は、帝王切開を含めて皮膚切開を横切開とし、美容上の配慮をしています。子宮癌に関しましては子宮頚癌Ⅰa 期、子宮体癌Ⅰ期までの症例を治療対象とし、それ以上に進行している症例は放射線療法も可能な高次医療機関へ紹介しています。ちなみに平成 16 年度に当院で治療を行いました悪性腫瘍の内訳は子宮頚癌 11 例（全て上皮内癌）、子宮体癌 8 例、卵巣悪性腫瘍 4 例、卵巣境界悪性腫瘍 1 例でした。

3 人体制の産婦人科の仕事量としてはオーバーワークのように感じていますが、今後も、患者様の安全を第一に診療にあたってまいる所存です。先生方におかれましては、今後とも、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

尚、産婦人科の診療内容につきましては、広島記念病院のホームページを御覧いただければ幸いです。

広島記念病院産婦人科手術実績　（流産手術及び人工妊娠中絶術を除く）

年度（平成）	11	12	13	14	15	16
子宮全摘術（腟式）	63	67	48	36	30	35
子宮全摘術（腹式）	37	37	63	42	37	42
筋腫核出術（腹式）	13	18	16	17	27	19
筋腫核出術（腹腔鏡）	0	0	0	0	1	1
子宮脱手術（腟式）	38	32	48	43	27	45
附属器腫瘍摘出術（開腹）	19	7	17	9	6	13
附属器腫瘍摘出術（腹腔鏡）	16	36	65	96	83	77
子宮外妊娠手術（開腹）	2	0	3	0	1	0
子宮外妊娠手術（腹腔鏡）	2	13	21	19	17	10
子宮頚部円錐切除術	3	1	6	13	4	15
バルトリン腺手術	4	2	1	3	2	2
子宮頚管縫縮術	0	3	2	6	7	4
その他	0	2	0	2	3	2
帝王切開	66	88	102	96	93	85
計	263	306	392	382	338	350

広島記念病院産婦人科分娩実績

年度（平成）	11	12	13	14	15	16
総分娩数	424	536	648	599	567	505
経腟分娩	358	448	546	503	474	420
帝王切開	66	88	102	96	93	85
帝王切開率（%）	15.6	16.4	15.7	16.0	16.4	16.8

病診連携室だより

☆ 医師変更のお知らせ

［退職］　眼科　柴原　玲子　　平成17年12月31日
　　内科　佐倉　英一郎　　平成17年12月31日

＊　佐倉医師が担当しておりました火曜日と木曜日の外来診療日には、河村、隅井が代診し、毎週月曜日には広島大学病院の応援医師により循環器系の検査を実施いたします。平成 18 年 4 月には循環器の医師を採用し、従来どおりの診療体制にいたしますので引き続きよろしくお願い申し上げます。

［採用］　眼科　石田　恭子　　平成18年　1月　1日

☆ 新任医師紹介

眼科医師　石田恭子
専門領域　白内障　眼科一般

《新任挨拶》
　広大眼科医局に入居し、中国労災病院、県立広島病院、中電病院等を経て平成18年１月から広島記念病院へ勤務することになりました。
　中電病院では、主に網膜硝子体疾患に対しての治療に携わってきました。今後は白内障を中心に取り組んで行きたいと思います。 よろしくお願い致します。

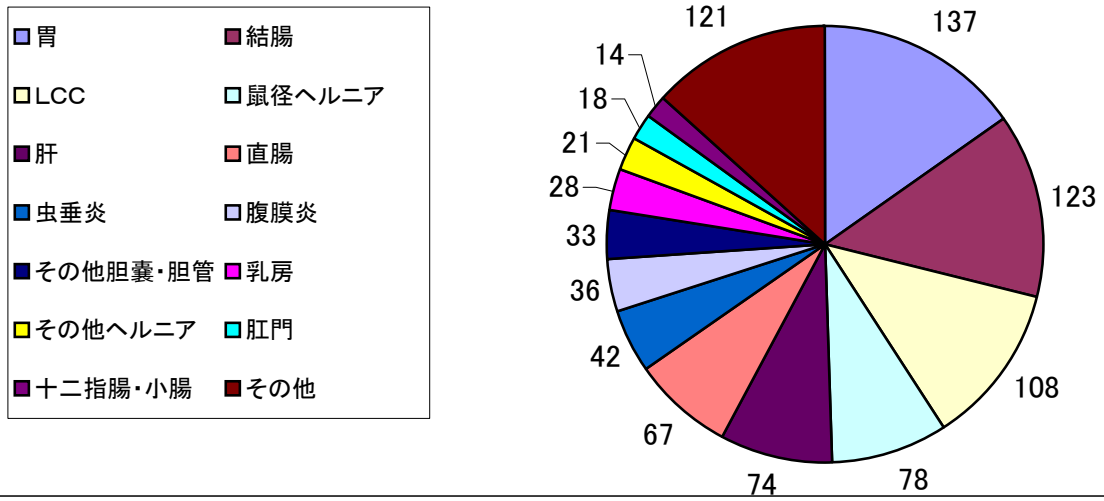
☆ FAX受付にて予約診療を実施しております。
　受診希望日の前日午後4時30分までにFAX送信してください。
　病診連携室より紹介元医療機関へお電話し、予約の調整や予約日時の連絡先確認等させていただきます。
　なお、検査（内視鏡・超音波・ＣＴ・ＭＲＩ等）が必要な場合は、従来どおり、各科外来にご予約いただきＦＡＸ送信してください。

☆ 特定医師へのご紹介は、外来医師配置表をご参照いただき、できるだけ外来診察日にご紹介いただきますようお願い申し上げます。

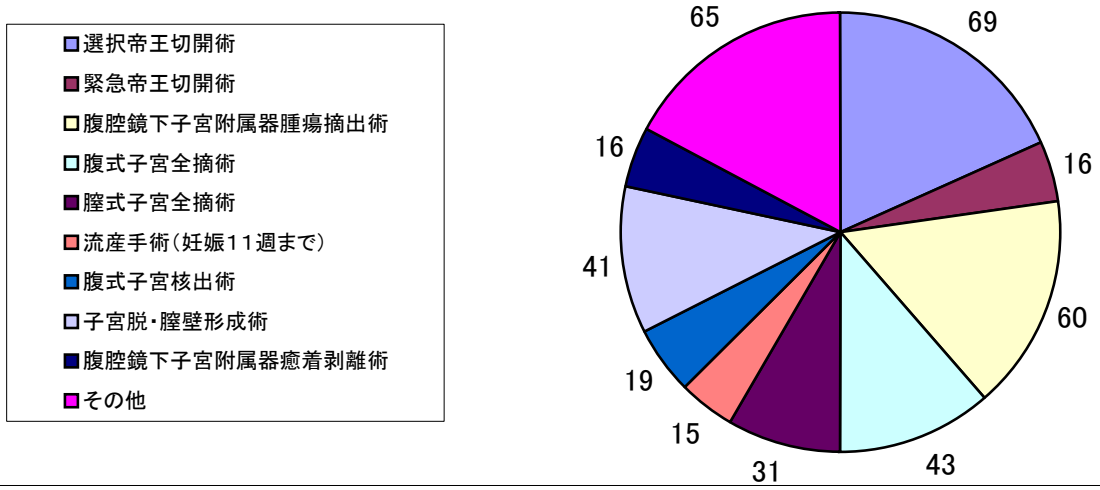
☆ 当院に対するご要望、ご意見等ございましたら病診連携室へご連絡ください。

担当　清水　今中　中河内

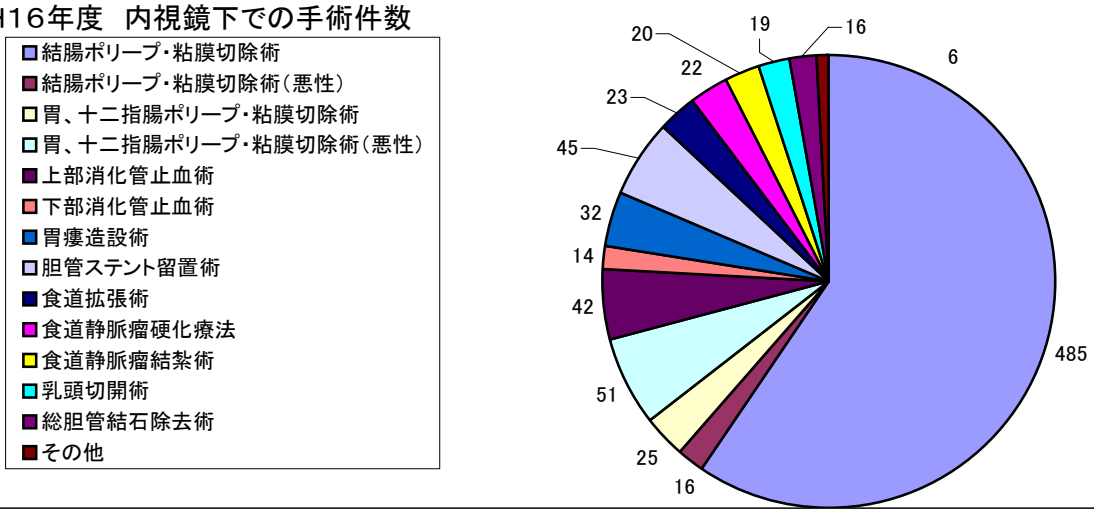
H16年度　外科部位別手術件数

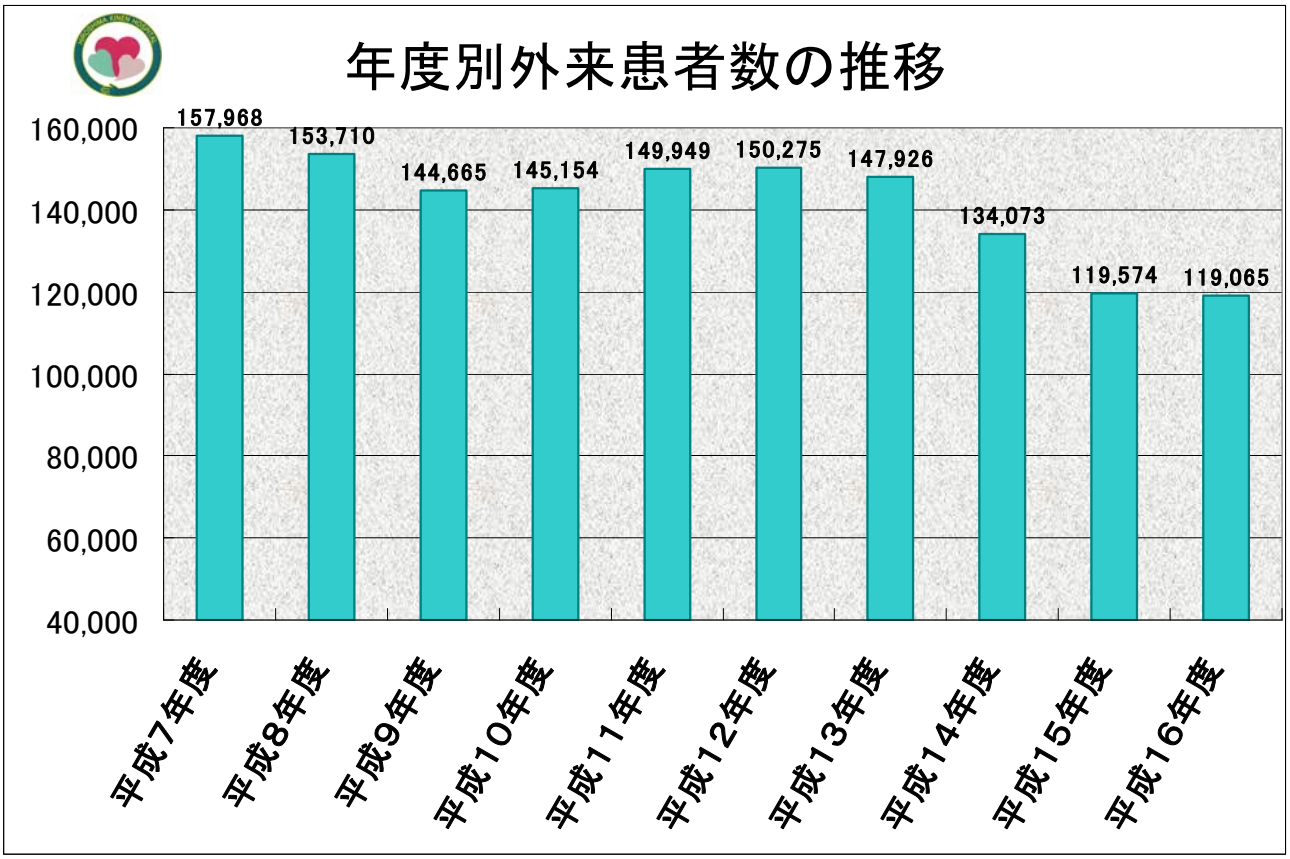


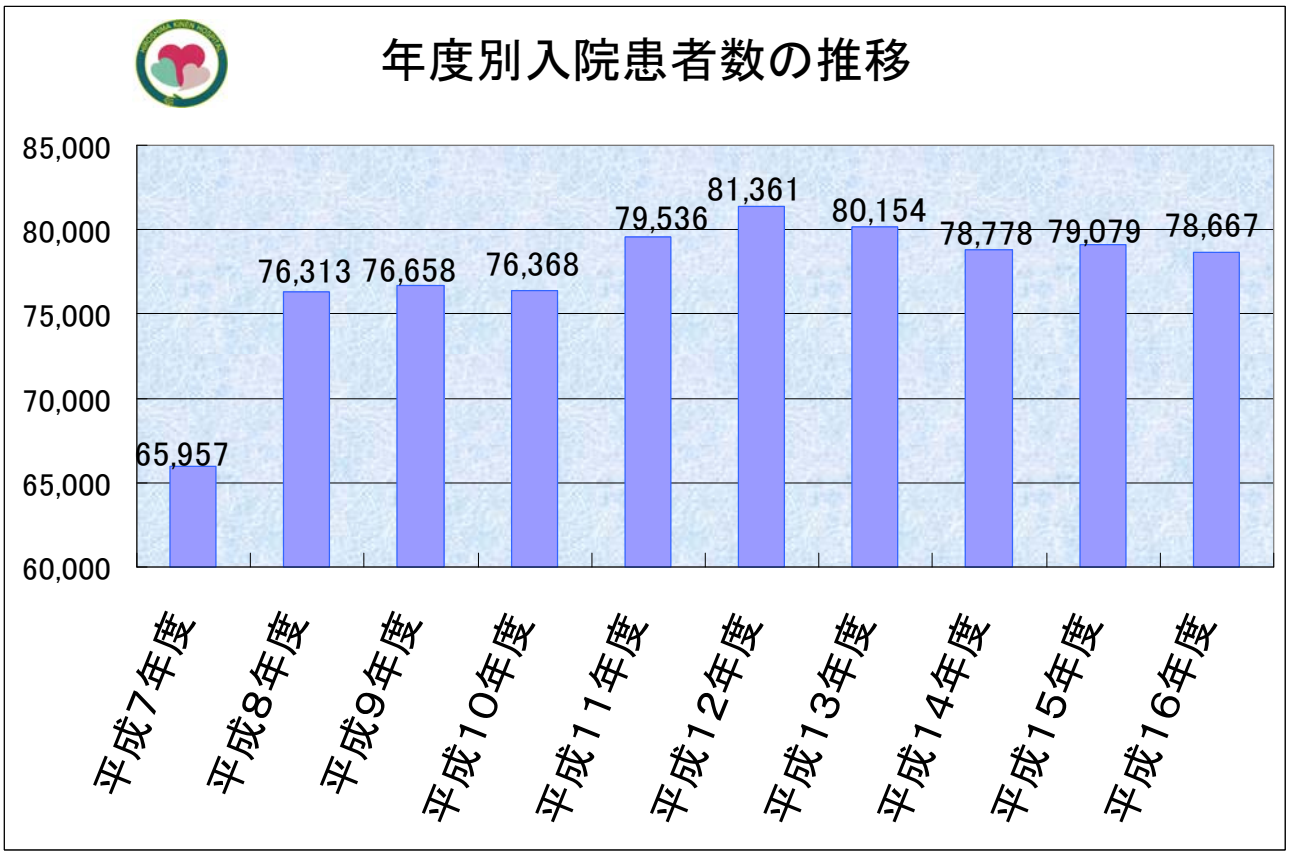
H16年度　産婦人科手術件数

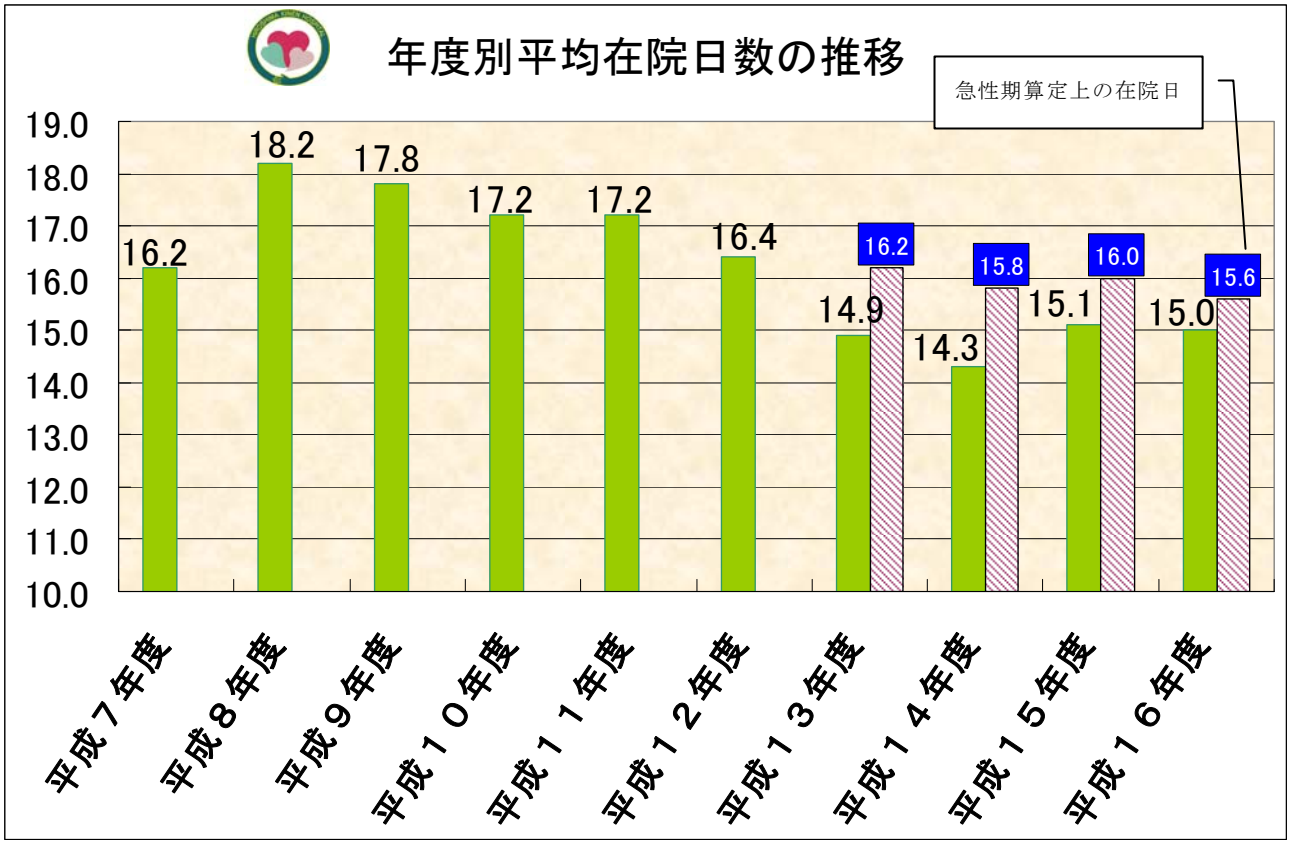


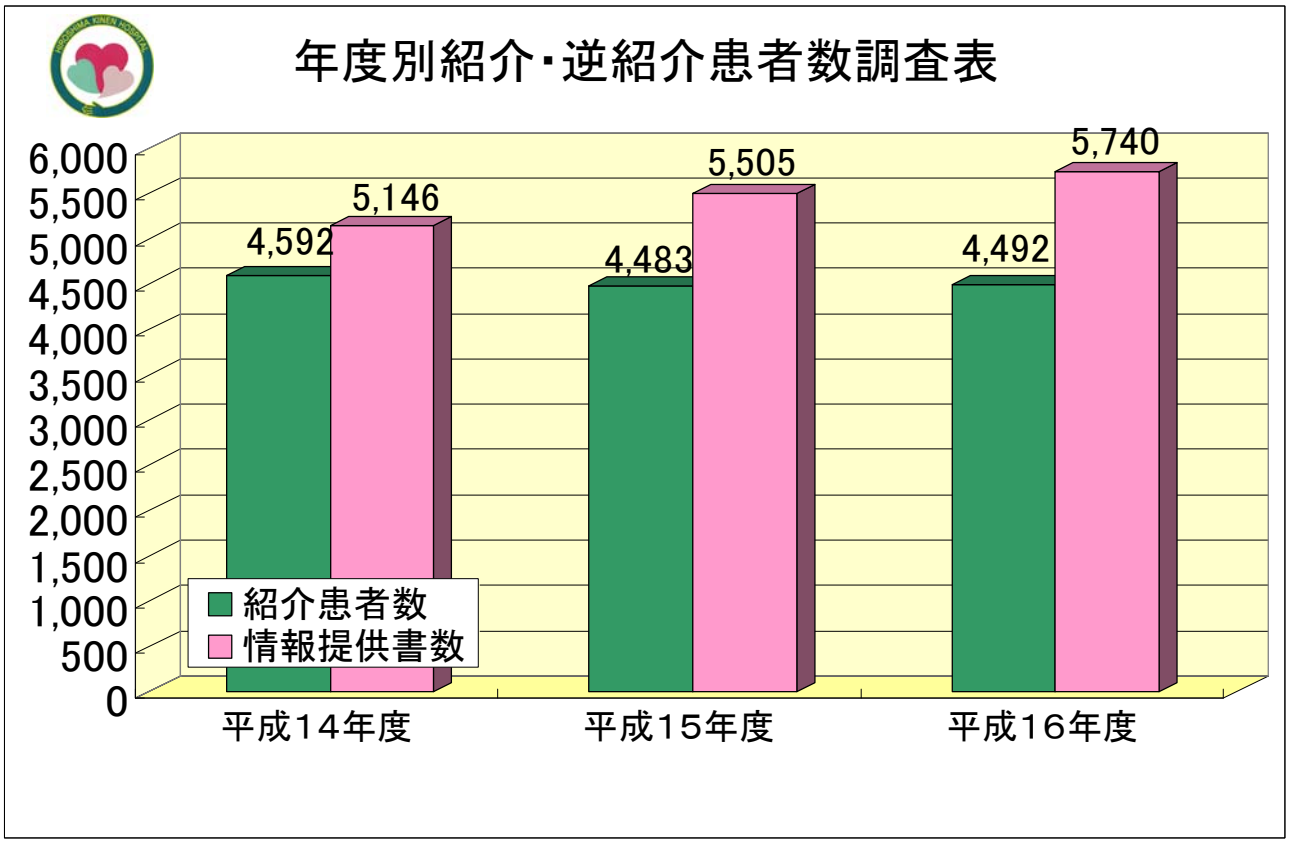
H16年度　内視鏡下での手術件数




年度別外来患者数の推移
160,000
140,000
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
157,968
153,710
144,665
145,154
149,949
150,275
147,926
134,073
119,574
119,065
平成7年度
平成8年度
平成9年度
平成10年度
平成11年度
平成12年度
平成13年度
平成14年度
平成15年度
平成16年度


年度別入院患者数の推移
85,000
80,000
75,000
70,000
65,000
60,000
65,957
76,313
76,658
76,368
79,536
81,361
80,154
78,778
79,079
78,667
平成7年度
平成8年度
平成9年度
平成10年度
平成11年度
平成12年度
平成13年度
平成14年度
平成15年度
平成16年度


年度別平均在院日数の推移
急性期算定上の在院日
19.0
18.0
17.0
16.0
15.0
14.0
13.0
12.0
11.0
10.0
16.2
18.2
17.8
17.2
17.2
16.4
14.9
16.2
14.3
15.8
15.1
16.0
15.0
15.6
平成７年度
平成８年度
平成９年度
平成１０年度
平成１１年度
平成１２年度
平成１３年度
平成１４年度
平成１５年度
平成１６年度


年度別紹介・逆紹介患者数調査表
6,000
5,500
5,000
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
4,592
5,146
4,483
5,505
4,492
5,740
紹介患者数
情報提供書数
平成14年度
平成15年度
平成16年度

国際てんかん学会議に参加して

小児科医長　岸　高正

平成 17 年 8 月 28 日から 9 月 1 日までフランスのパリで開催された第 26 回国際てんかん会議に参加してきました。この会は、国際抗てんかん連盟が主催して 2 年に 1 回開催され、世界中のてんかんを研究する研究者やてんかんを診療する医師、てんかん患者の教育や生活を支援する学校の先生やソーシャルワーカーの人たちなど多くの職種の人々が一堂に介してんかんに関する研究成果を発表したり、てんかんに関わる諸問題を討論したりする会議です。

今回の会議では、70 カ国から応募のあった 1300 もの演題が集まり、大変にぎやかな会でした。会議のメイントピックスとして、

1. Drug Resistance, Mortality and Surgical Treatment
2. Epilepsy and Other Neurological Disorders
3. Seizures and Developing Brain
4. Genes and Syndromes
5. Cross-Cultural Aspects of Epilepsy Care
6. Sex, Hormones, and Pregnancy
7. Depression, Anxiety, and Psychosis

が用意されていましたが、こうした各分野の最先端の話題やトピックスを集めた教育講演的なシンポジウムには多くの参加者が集まっていました。今回の国際学会で印象に残ったのは、日本がてんかん治療に関しては薬剤選択肢の少ない後進国であるということです。各施設から出されるてんかんの治療成績で目を引くのは、各製薬会社が満を辞して登場させた抗けいれん剤や欧米では広く使われている新薬などの良好な治療成績です。ラモトリジンにトピラメイト、ガバペンチンにオキシカルバマゼピン、海外では既に臨床応用されて良い治療成績をあげている抗けいれん剤です。しかるに、日本では、どれも使用できないという現実。多くは安全性の問題から、日本では認可されていません。もちろん薬では、安全性の検討も大切ですが、難治性てんかんで苦しむ患者さん達を見るにつけ歯がゆさのます会場の私でした。

私の発表は、ポスターセッションで学会 4-5 日目となる 8 月 31 日から 9 月 1 日にかけてでした。内容は、抗けいれん剤の副作用に関する ’Mechanism of Valproate-induced Red Cell Macrocytosis’と題するものでしたが、質問も予想されたものだけで無事発表を終えることができました。

学会の会場で、以前から存じ上げていた北大の先生とその先輩の先生にお会いしました。その先輩の先生は、若い頃パリに留学されていたようで、当時のアパートを訪ねてみようということになり、私もお供することになりました。そのアパートは当時のまま残っており、中には入れませんでしたが、懐かしそうに 4 階のその部屋を見上げておられるのが印象的でした。そのあと、当時いきつけのパブに案内していただい

学会会場　Le Palais des Congrès de Paris

て、ワインやビール(フランスにもビールはあるみたいです)を片手に、留学されていたパリの神経病院のこと、留学中の生活のことなど面白い話を沢山聞かせていただきました。当時は良い時代で、職員は昼食は無料で好きなだけ食事をとることが出来たようです。パリに来られてしばらくは、言葉のこともあり自宅ではパンとワインくらいで済ませてほとんど食費はかからなかったとおっしゃっていましたが、留学生にも優しいフランスという国の懐の深さを思い知らされるようでした。

今回の学会で耳にしたり、目の当たりにした新しい疾患概念や新薬の話、新しい薬の使い方などの知識は、帰国後の日常診療にすぐ生かせるものも多くありました。今回の経験を加えて、さらに患者さんに信頼される小児科医、小児神経科医と成るべく研鑽を積みたいと思っています。小児の神経疾患特に熱性けいれんやてんかん診療を得意にしておりますので、御連絡いただければ、何がしかお役にたてるかと存じます。今後ともよろしくお願いします。

研修医紹介

広島記念病院での研修を終えて

研修医　苗代典昭

平成 17 年７月１日から９月３０日まで三ヶ月間お世話になりました。医師になって三ヶ月しか経っていない状態でこの病院に来て、知らないことばかりなので毎日が勉強になりました。特に外科研修ということもあり、知識ばかりか技術的な手技の習得に苦労しました。私は大学での外科研修は、手術に入れるチャンスの少なさからなるべく敬遠し、症例数の多いこの病院を希望し実習に来ました。実際数え切れないほどの手術に入ることができました。いただいたオペレコが束になるほどでした。そのほとんどの症例で挿管等の外科的手技を学ぶことができました。この経験は私にとってこれからの貴重な財産となることでしょう。

１０月からは広島大学の救急部・麻酔科を回ることになっています。この記念病院とは全く違った研修になると聞いています。しかしここで学んだことを忘れずこれからも努力していこうと思います。

最後になりましたが、何もわからなかった私に親切に指導してくださった先生方や看護師さんをはじめ多くの皆様、本当にありがとうございました。これからも御指導御鞭撻の程宜しくお願いします。

広島記念病院での外科研修を終えて

研修医　大野　敦司

広島大学病院で、第一内科（消化器）、第二内科（循環器、代謝内分泌）を三ヶ月ずつ研修した後の外科研修を広島記念病院でさせて頂きました。全く違う環境に、当初はとまどうことばかりでしたが、この文章を書いている今では、ここを去る事を寂しいとさえ感じられるようになりました。

広島記念病院では主に、手術のアシスタントをさせて頂くと共に、マスク換気や気管挿管、抜管、脊髄くも膜下麻酔等といった手技を経験させて頂きました。同じ手技であっても、人それぞれ異なる体型や体質にあわせて、やり方を微調整しなければならないという事を痛感しました。症例数が少ない場合、そういった個人差、個体差といったものを感じることは難しい事かと思います。記念病院の様に症例数の多い病院で研修できた事は、本当にかけがえのない経験だったと思います。

賛否両論うずまく現在の卒後臨床研修制度ですが、自分の意志の持ちようによっては、二年間の専門性の遅れを補って余りある、有意義な経験を出来ると感じさせられる三ヶ月間となりました。

いつもあたたかく見守り、指導してくださった先生方、看護師の方々、職員の皆様方への感謝の念は言葉では表現し切れません。一月から大学病院の救急部での研修となりますが、記念病院で学んだことを糧に、よりいっそう精進してゆこうと思います。三ヶ月間本当にありがとうございました。

広島記念病院での研修を終えて

研修医　高田　剛志

広島記念病院の外科で、2005年の10月からの3ヶ月間研修させて頂きました。それまでは大学病院での研修であり、今回が初めての外病院での研修でした。この病院で研修させて頂く以前に、この病院で研修された先生方からお話を聞かせてもらいました。どの先生方も、記念病院では知識と技術の両面で非常に充実した研修ができたという感想をお持ちで、機会があればまたこの研修したいという方ばかりでした。実際に記念病院で研修させて頂いて、この病院の症例数の多さと指導医の先生方のレベルの高さに驚かされました。毎日が手術日であり、他の施設では考えられない程の症例を経験する事ができました。また挿管などの手技も、丁寧に教えていただきながら多くの症例を実際にやらせてもらう事ができました。医局内でも患者さんについて外科以外の先生方も含めて話し合いをされており、幅広い意見を聞く事が出来て大変勉強になりました。

この広島記念病院での研修は、本当にあっという間で、充実した3ヶ月間でした。忙しい時間の中、研修医のために時間を割いていろいろ教えて頂き、ありがとうございました。ここでの経験を活かし、少しでもこの病院の先生方に近づけるよう、今後も努力していこうと思います。

最後になりましたが、院長先生をはじめ外科の先生方、医局でお世話になった他科の先生方、看護師の皆様、事務の方々には本当にお世話になりました。不慣れで戸惑う事ばかりでしたが、本当に優しく丁寧にご指導いただき、ありがとうございました。

病院の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」について

病院のこころ、職員の姿勢を伝えることを意とし、平成 10 年 6 月病院建替え完成と同時に、下記の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」を制定いたしました。患者の皆様やその関係者の方々等広くお知らせするため、病院玄関より各階すべてに掲示しております。日々の仕事のなかで実現できるよう努力しております。

理　　念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲　　章

1．私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2．私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3．私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4．私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

患者様の権利の尊重

◆ 患者様の人間としての尊厳を尊重し秘密を守ります。
◆ インフォームドコンセント（良く納得された上での合意）を基盤とし、信頼関係を確立します。
◆ 各科の有機的な連携を図り、高次で専門的な総合医療を行います。
◆ 癒しの心を持った、接遇、ケアーを行います。
◆ 癒しの心を持った、入院環境、アメニティーの整備を心がけます。

代表　広島記念病院

ＴＥＬ　０８２（２９２）１２７１

ＦＡＸ　０８２（２９２）８１７５

庶務課

ＴＥＬ　０８２（５０３）１００１

病診連携室（医事課）

ＴＥＬ　０８２（５０３）１００３

ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１０

内科・外科

ＦＡＸ　０８２（５０３）０７２２

産婦人科・小児科

ＦＡＸ　０８２（５０３）０７２３

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

ＦＡＸ　０８２（５０３）０７３１

４病棟

ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１４

５病棟

ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１５

６病棟

ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１６

７病棟

ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１７

８病棟

ＦＡＸ　０８２（５０３）１０１８

			外 来 医 師 配 置 表			平成 18 年 1 月 1 日現在		
診療科	受付時間	区　分	月	火	水	木	金	土
内　科	午　前	一　診	河　村　寛	*河　村　寛*	河　村　寛	*隅　井　雅　晴*	河　村　寛	
		二　診	隅　井　雅　晴	中　村　利　夫	隅　井　雅　晴	中　村　利　夫	津　賀　勝　利	
		三　診	江　口　紀　章	田　村　忠　正	津　賀　勝　利	江　口　紀　章	田　村　忠　正	
	午　後				岡田 浩佑　血液			
外　科	午　前	一　診	藤　本　三　喜　夫	中　井　志　郎	藤　本　三　喜　夫	宮　本　勝　也	中　井　志　郎	
		二　診	宮　本　勝　也	横　山　雄　二　郎	森　藤　雅　彦	松　浦　雄　一　郎	森　藤　雅　彦	
			手　　術	手　　術	手　　術	手　　術	手　　術	
	午　後		藤　本　三　喜　夫	中　井　志　郎			中　井　志　郎	
産婦人科	午　前	初診・再診	横　田　康　平	横　田　康　平	横　田　康　平	横　田　康　平	*応援広大医師*	
		再　診	*白　石　章　子*	*応援広大医師*	*白　石　章　子*	*白　石　章　子*	白　石　章　子	
	午　後	初診・再診	白　石　章　子	手　　術	横　田　康　平		手　　術	
小 児 科	午　前		岸　　高　正	岸　　高　正	岸　　高　正	岸　　高　正	岸　　高　正	
	午　後		岸　　高　正	大 野 令 央 義		岸　　高　正	松　尾　英　子	
			予防接種・一般診療	乳児健診・一般診療	乳児健診・一般診療	予約検査・一般診療	予防接種・一般診療	
耳鼻咽喉科	午　前	一　診	屋　敷　建　夫	堀　部　よし恵	堀　部　よし恵	堀　部　よし恵	堀　部　よし恵	
		二　診	堀　部　よし恵					
	午　後	一　診	屋　敷　建　夫		手　　術	手　　術	堀　部　よし恵	
		二　診	堀　部　よし恵					
皮 膚 科	午　前		間 所 直 樹				木 下 麻 衣 子	
泌尿器科	午　前			石　　光　広		亭　島　　淳		
眼　科	午　前		*石　田　恭　子*	*石　田　恭　子*	*石　田　恭　子*	*石　田　恭　子*	*石　田　恭　子*	
	午　後		精 密 検 査	精 密 検 査	手　　術	精 密 検 査	手　　術	
歯　科	午　前		山　田　賢　治	山　田　賢　治	山　田　賢　治	山　田　賢　治	山　田　賢　治	
				村 田 比呂司			西　村　正　宏	
	午　後		山　田　賢　治	山　田　賢　治	山　田　賢　治	山　田　賢　治	山　田　賢　治	